

平成31（令和元）年度 第2回西伊豆町総合教育会議議事録

1 開催日時 令和2年1月15日(水) 午後2時20分から午後3時30分まで

2 開催の場所 福祉センター 大会議室

3 出席者 町長 星野 淨 晋
教育長 清野 裕 章
教育委員 鈴木 秀 輝
教育委員 眞野 有 吏
教育委員 森本 仁 子
(欠席者 教育委員 山本 久美子)

4 事務局 事務局長 高木 光 一
施設整備係長 朝倉 通 彰
社会教育係長 松田 恵 一
学校教育係長 石田 智 直

5 傍聴者 なし

6 議 事

(1)令和2年度西伊豆町教育行政の基本方針案について

(2)教育委員会事務事業全般について

(3)その他

局長 定刻となりましたので、ただいまから令和元年度第2回西伊豆町総合教育会議を始めさせていただきますと思います。最初に町長からご挨拶申し上げます。

町長 では、3年間中学校の方では賀茂中学校に統合し、のちに仁科の方で新築した建物の方に開校というような形をとっていきたいと思っております。それにつきましても、西伊豆町の子どもを如何に教育していくかということが大きな目標でもありますし、皆様のご意見も伺いながら良い教育を子どもに施していきたいと思っております。またこの2020年の西伊豆町教育行政の基本方針につきましても忌憚のないご意見をいただくとともに、その他の点でもお気づきのことがありましたら、ぜひ言っていただければ教育行

政に反映していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

局長 ありがとうございます。それではさっそく議事の方に入りたいと思います。議事進行につきましては町長をお願いをしたいと思います。よろしくお願いいたします。

町長 それでは、議事の(1)「令和2年度西伊豆町教育行政の基本方針案について」事務局の方から説明をお願いします。

教育長 別紙をご覧いただきたいと思います。それでは2020年度西伊豆町教育行政の基本方針ということでこれは見やすいように見え消しでここに示しました。次回の教育委員会において、それについて採決を取らせていただきまして、そして2020年度の基本方針が決定というような流れになりますので、今日はこの場で皆さんからご意見をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

2020年度の西伊豆町教育行政の基本方針について、そこに四角で囲んだところが3つほどありますけれども、一番下の四角をご覧になっていただきたいと思います。

1番の四角についてはそこにある通り2020年度の重点目標ということになります。その重点目標については、一番上の国の第三期教育進行計画2018～2022年度、これを受けてのものです。また、すぐ下の矢印の右側にゴシック体で静岡県教育進行基本計画2018～2021年度有徳の人づくりという計画も踏まえて、西伊豆町教育大綱を設定しています。その西伊豆町教育大綱は2019年度～2022年度版、これについては教育委員会において検討し、採択していただいたものです。そしてそれを受けて2020年度の重点目標ということになります。ざっと説明させていただいた通り2020年度の町の教育委員会の重点目標は国や県の計画や大綱と連鎖しています。計画や大綱は2021また2022年度までのものとなっているため、今後大きな変化があるとすればおそらくその時期に当たるかと考えられます。

2020年度の重点は2019年度の一部修正ということで提案をさせていただきます。そこにある通り1番～5番までこれは2019年度の重点目標と変わりありません。まず1番「ふるさとで生きること」に自信と誇りを持ち、ふるさとで生きていく力の育成」これは前任者から引き継いだものでありますけれども、まったくその通りだというようなことで1番はそのままです。さらに2番も同様にそのままありますけれども、この中で「生涯を通して学び、ス

スポーツや文化活動を楽しむことができる町民への支援」ということで先ほどの教育委員会で見ていただいた通り、来年度はオリンピックの自転車競技の観戦これを小学校5年生6年生そして中学校全学年で予定をしています。修善寺まで行って自転車競技を観戦する予定であります。それから3番「教育環境の整備」これは園と学校再編に向けての準備ということで、先ほど町長のご挨拶にもありました通り、2021年統合中学校スタートということで一年前にあたります。それに向けての準備を現在進めている所で、さらに2020年度継続して進めたいと最後の詰めを行いたいと考えております。4番「確かな学力の育成」。これは学校の中心的なテーマであってコアな部分であるかと考えます。5番「国際教育の推進、英語教育と国際理解教育の充実」というようなことで考えております。台湾ホームステイにつきましても先ほど説明させていただいた通りこれから検討ということになります。

それから6番「豊かな心を育む(適切な機会をとらえての道徳教育と人権教育)」この旧6番についてはこの通り削除させていただきました。というのは、これは教育委員会の行政に課せられた重点というよりかは、むしろ園や学校での現場での指導に記載する部分だと考えましたので、そのところは削除させていただきました。

そこからあと順次項目が繰り上がりまして、6番「学びのセーフティネットの構築、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、支援員等を適切な配置」ということになります。とくに今、田子小学校の方で複式学級が始まっていますけども、その担当する教員についてなんとか人をつけたいと、そしてまた次には賀茂小学校の方でも複式は2021年度から始まりますので、こちらの方の人の配置が非常に厳しくなってくるところです。7番「文化、芸術、スポーツ活動の充実」そこに民間と書かせていただいておりますけれども、各種団体や民間事業者と一部修正をさせていただきました。これは体協、文化協会を意識してのことです。8番「地域学習の充実」ふるさと学習、地域学の促進ということで職場見学、体験学習、ジオ学習そのような学習をそれぞれ各学校で進めていただいていますけれども、現場の支援の方を引き続き行っていきたいと考えます。9番「子育て支援の充実」ということで多様なニーズの答える保育園の推進、保育料無料ということは、全国的にも昨年の10月1日から始まっておりますけれども、西伊豆町においてはそれ以前から保育料無料、さらに給食費も無料ということで2016年4月から実施しています。これも引き続き進めて参りたいと考えます。10番これは新しく項目を加えました「男女共同参画社会作りの推進、地域課題への取り組み」これについては急激な人口減少社会があるわけですが、その現在ある人口の半数が女性にあたります。その女性の力というの

がまだまだ社会の中で充分活かされていないのではないかというようなことがありますのでその女性の力を今後社会の中で活かしていきたいというような目標を掲げました。現実には女性会というのが消えつつあって非常に難しい課題であると捉えていますけれども、その具体的な施策については初年度として県の研修会への参加さらにまた先進地の視察などそういったことから行えればと考えております。

以上がこちらの方の基本方針、裏面もありますけれども表面についてまずいかがでしょうか。

町長 はい、今、教育長の方から基本方針につきまして説明がありました。裏面につきましては、また後ほどということですので表面につきまして何かご意見等ありましたらお願いいたします。

鈴木委員 重点目標の5番のところで英語教育と国際理解教育の充実というのがあ

るのですが、今ALTが英語教育をやってくれていると思うが、国際理解教育についてということだと台湾との交流などあるだろうが、それはそれで続けてもらえるかということと、行きたい子たちはそういう機会があるの

だけど、そうでない子たちがそういう国際理解に係るような体験の場というのはなんかそういうのはないのかな。

教育長 これはALTが3名町内に配置されていますので、その方たちとの交流もありますし、英語のキャンプというものも実施しておりますので、その辺りもまた継続して行っていきたいと考えております。それから町内の英語教育の研修会も現在実施しています。また、さらに静岡大学の方との連携も現在進めています。かなり英語については厚くやっているかとは思いますが。

台湾について、まだこれからのことなのですが、澎湖県との台湾交流が難しくなった。これからもおそらく台湾ということになるかと思いますが、内政が総統選挙などで報道されていますけれども、かなり複雑な所です。こちらの方でも訪れて、交流で言葉を発するにも注意が必要なのかということを感じます。そういうことも含めて交流が出来れば良いなどは考えております。

町長 台湾の方は来年度の話は皆さんご存知なんですよ。

局長 一応、8名の子たちを向こうへと派遣したいという話はさせていただきます。予算で総務課長のところで一回切られてますので。

町長 財政側からするとなんで台湾なのかという話もあるようです。ただそれでも各国の内政という一番近い韓国だってどうなるのか分からない。中国となるともっと危ないので、台湾は逆に今は総統になったので4年間は安定する。

ただ澎湖県は知事が野党の方に切り替わったので、だいぶ変わったらしいです。去年、台湾の澎湖県で美しい湾クラブの世界大会があって講演提携をしてるので向こうへ行って県の人たちと会ったのですが、県の人たちは今年富山で世界大会がありまして、そちらに行きたいです。澎湖県の方が来られてたらしいのですが、やはり頭が変わって形態がまったく変わったので、挨拶しても一言も言ってくれなかった。要は、お前らは前の政権との繋がりがろくらしいの感覚でひどかったと県庁の方が言っていましたので、澎湖県は今の段階では近寄りがたいのかなということがあります。今度の高雄の下の所は、もうすでになられてる小さな所であと3年はあるので、そこは別に上手く付き合っていけば良いのかなと思ってはおります。できれば、今ネット社会なのでネットでリンクさせてくれれば、時差は1時間しかないで子どもたちはそこで国際交流が可能なのかと。またその辺は学校サイドと話をしてみても可能であればそここのところも行く1ヶ月くらい前から多少それで交流しておいて、行った後も引き続き交流するとかというのをやったらどうかと思います。

鈴木委員 10年くらい前に松崎高校でベトナムの子たちを呼んで交流したことがありましたけど、ホームステイ2泊くらいして。少し距離は遠いが、目を向けてみたり、行けるかどうかはさておいても、考えてみたらどうか。

町長 ベトナムも三角屋さんの工場の関係で去年ペナン省かどこかへ行って繋がりはあるのですが、こちらからは行けます。ただ物価がかなり違い、日本の物価の10分の1とか20分の1くらいなので向こうの人はとてもじゃないけど、大金持ちじゃない限り来ることができない。だからそれくらいの格差があるので、その辺は考慮しないと向こうの東南アジアは厳しい。そうすると台湾あたりがあまり変わらない。

局長 来年度については先ほど町長がおっしゃった南部の屏東県からはこちらへは来られないということなんですけど、次の年については修学旅行として送り込みたいという話もいただいていますので、次年度にはまた交流が広がるかとは思っています。

町長 またその辺もお気づきの点がありましたら、何か言っていただければ。

教育長 確かに近隣諸国を見てみると、いずれもちょっと不安なところがあって台湾は比較的安定はしているのかなというところは確かだと思います。

局長 一応、同額予算の中で来年度お願いをしてあるのは、今まで4人だったところが8人交流できるということでやらせていただければとは思っています。

鈴木委員 子どもたちも8人の方が心強いのではないかと。

局長 ホームステイを今度は受けなくて良いということなのでそれだったら。

町長 保護者の方もハードルがかなり下がった。

局長 だから、たぶんいるんじゃないかと思えますけどね。

教育長 では、裏面の方に行かせていただいて。お願いします。2020年度西伊豆町の教育環境整備ということで教育環境の方へとフォーカスしたものです。

(1)2021年中学校統合、2024年園の統合と小中一貫校の開校に向けた準備を継続していきたい。これは表現上の修正ですので大きな修正ではございません。

(2)既存校舎の安全な維持管理と複式学級の課題緩和のための人的支援これを進めていきたい。2020年度には田子小学校1名、そして2021年度には田子小学校と賀茂小学校に各1名ということになりますけれども、人がいないというのがいつもの悩みの種ということでもあります。

(3)について、小学校と中学校の普通教室にエアコンを設置するというところで2019年度はそれを(3)のところに掲げたわけですが、これについては西伊豆中学校のクーラーが不調であるということですが、西伊豆中学校はあと1年ありますので今考えてるのは新しくクーラー又はエアコンを設置ということではなく、扇風機で対応したいと考えているところであります。(3)に学校におけるICT環境の活用ということでこれは新規に入れさせていただきました。新規と言ってもその下のメニュー、(9)の主なメニューとして、ICT環境の活用というのが見え消しで少し見えるように残っています

けれども、このようなことについて(3)へと特出しをさせていただいたというようにところです。下の方の特色の主なメニューから移行するとお考えいただければと思います。

(4)校務支援ソフト。これは先ほどの教育委員会での話に出て参りましたが、現在下田市と松崎町が先行実施しています。他の町については西伊豆町を含めて来年度稼働させる予定で今、先生方に研修を積んでいただいています。校務支援ソフトを稼働させ、教職員が児童、生徒と向き合う時間を確保するこれを継続させていただきます。

(5)指導主事による教職員の指導力の向上。もとは指導主事と幼児教育アドバイザーの二つを並べてあったものを(5)と(6)に置きました。

(6)とくに幼児教育アドバイザーにつきましては指導力の向上と円滑な連携、幼・小の円滑な連携それぞれについて重点的に取り扱っていただきます。

(7)社会教育事業の見直しということであげさせてもらいました。これについてはご意見をいただきたいと思います。今まで学校教育と社会教育の連携融合というのが生涯学習において非常に大きなテーマであったと。その方向で今まで進めて来て、今あるほとんどの行事が学校教育と社会教育の連携融合によるものです。これについて初期の段階においては細かな打ち合わせも学校教育と社会教育とで行っていました。

例えば、夕陽の郷マラソンを開催するについてもその前は潮騒マラソンの時に、社会教育と学校教育とで、どこにだれを配置するとかというような細かなところまで打合せを行ってきましたけれども、ところがそれがなかなか出来なくなって来ており、とくに学校の方において多忙だということもありまして、現実には社会教育が主導で行っています。そうしますとどうしても学校では社会教育に引きずられてというような、そういう意識が出て来て、それに加えて働き方改革、統合関係の仕事も増えて来ています。そう言った中から次第に継続ということが社会教育事業と学校教育が難しくなって来ていると考えています。そのこのところの事業の見直しを新たに行っていきたいと考えます。

それから(8)についてですけれども男女共同参画社会作りに向けての施策の検討。これは先ほど見ていただいたそれをここへと持って来ております。重点をそのまま教育環境整備としてあげさせてもらいました。

(9)の特色ある学校作りの推進。これは学校再利用型予算でありますけれども、これについては継続していきたいと。

それから主なメニューについては先ほど説明させていただいた通り、(1)を特出して、あと新たに①②③と付け加えさせていただきました。とくに①については民間事業者の教材を用いた学習機関の喪失、小学校におけるZ

会教材の活用。これは今までやってきているものでそれプラス中学校におけるベネッセ教材の活用、これはタブレットを用いてソフトシステムをそれに入れて実施したいと。これについては現在松崎高校も実施していますのでそれへと橋渡しができればと。まだ賀茂中学校においてということでこれはまだ試行段階で進めたいというふうに考えております。②について、各種テストや調査の実施。MRTやQ-Uといったような検査の方を引き続き実施して参りたいと思います。③社会人による講演会、学習支援、音楽鑑賞会、放課後学習、職員研修等上げさせてもらいました。

それから(10)については、そこにある通り昨年度とほぼ同じような内容になりますけれども、それを引き続き実施していきたいと考えております。

以上裏面についての説明になります。よろしく申し上げます。

町長 はい、只今教育環境整備につきまして説明がありましたが何かご意見、または質問等ございましたらお伺いいたします。

鈴木委員 (3)のICT環境の活用の新規ということは下の①のところがそっちに上がると考えて良いですか。

教育長 はい、例示してきたものをそちらにあげるとのことです。

鈴木委員 プログラミング学習とかそういうのは今、小学校でやってます。それはそのままやるということですね。下田の方はプログラミング学習を中学生がやっているみたいで、内容的なものはどの程度やっているのかわからないのだけれど、自分が困っているのは、技術の授業が3年生で情報プログラミングを教えなくてはならなく、やってるのだけでも中学でやってるのは2,000円のおもちゃを使ってやっており、小学校は6倍のおもちゃを使ってやってる。差がすごい。仁科小は寄付をしてもらった。

それが上手くリンクしていない、お互いに自分は1回だけ見に行ったけれどもなかなか下田のも見たことないし、どんなことをしているかを聞くくらいで、具体的なことはわからないのだけれども、学校でプログラミング学習を教えなくてはならないということになっているのに、社会教育は社会教育でやってる、だからその辺がお互い何をやっているかということがわかり合っていない。だから二重になってる所があったり、全然とんちんかんな所があったりする。せっかくやるのだったら、そういう所をどこかで情報交換がちゃんと出来るようになった方が良いのかと思います。

町長 また、その辺は上手く校長会かなにかで、どこの学校が何をやっているのかを連携し、うちの場合は5校しかないので上手くやっていただいて、それぞれ校長先生によってやりたいことが違うのかもしれませんが、あくまでも西伊豆町の子どもだという中で育ててもらおうようにしていただければ。ちなみに生徒にパソコンを持たせろとかという国が言い始めたと思うが、あれは1人に1台なのか。

局長 そうですね。今年度から来年度にかけて中1年と5・6年生で何年かにかけてパソコンの補助をすると、定額補助ですので満額ではないですよ。

町長 それはノートパソコンを1人1台ということですか。

局長 ノートとは書いてなかった。

町長 でもノートでないと持ち運べないですよ。

鈴木委員 要するに家で勉強ができるようになってこと。家に持ち帰って良いというわけではないのか。

局長 そうではないと思います。

石田係長 タブレットだと思います。

局長 当町は結構タブレットを整備しております。今度は先ほど教育長が説明したベネッセの関係もタブレットを整備したいというのがあります。これも上手く補助金を使いながらタブレットを整備できるのであれば、その中で来年度に。

町長 プログラミングだけそこに入れ込みが出来ればね。

局長 そうです。ちょっとその辺まだ具体的なことが来てないので。

町長 あとは学校の先生はみんな使えるの？

局長 やっぱり不得手な先生もいらっしゃいます。なかなか充分使いこなせてない先生もいらっしゃいますね。

鈴木委員 今、入ってるタブレットはiOSなのか。自分もOSが違うから触ってない。

局長 今度、西伊豆中は。

石田係長 一応、タブレットのOSはアンドロイドで、普通のアップルのiPadではないやつということですけど。

町長 それはもし入れるんだったら、賀茂中と西伊豆中は一緒にしないと1年後に違う機種を一緒に使うことはありえないので。

局長 今回、上がっているのは賀茂中からの特色あるの提案で上がって来てます。統合した時にはそれで同じやつで使えるようにということで話はさせていただいています。プログラミングの関係についても、一度予算要求の段階で各学校からバラバラで要求が上がって来たので、いろんなものが欲しいということ。それではまずいだろうということで、一応先生方で話をさせていただいて、西伊豆町としてこういう段階を踏んでプログラミング教育をやっていきたいという方向性は検討しているところであります。

町長 あとは学校でよく有名な方を呼んで講演とかというのも当然その特色のある予算で各学校はやっていると思いますが、子どもの数も保護者の数も少ないので出来るのであれば、賀茂中が呼ぶのだけど西伊豆中も行っても良いなど、そこは上手くやってもらった方が費用対効果的には見込めると思うので。

教育長 これまでもそのようにさせてもらっていますので、今後もそのように出来たらなと思います。

町長 お願いします。

教育長 今度、西伊豆中で東海大学のバレー部の監督を呼ぶというような、南伊豆町出身の方ですけども、そんな計画もあります。

局長 今まで賀茂中学校の特色で呼んでいた戦場カメラマンさんとか、色々ありましたけれども、それをこのベネッセコーポレーションのタブレット購入とかソフト事業に切り替えたいというのが、今度の校長先生の考え方です。

教育長 それからプログラミング教育について、これから始まっていくということで僕らもどのようなものなのかということで興味がありましたけれども、学習指導要領に示されている中で機材を揃えなければならないというのが、理科の教材でそれがプログラミング学習に該当するのかということでちょっと調べてみたわけですが、その理科の教材というのは、プログラミングによって電気が付いたり消えたりというようなことですので、各学校でやっているものよりかはるかに初歩的なものです。むしろ西伊豆町内の各学校でやっていることについてはかなり進んでいるものなのかと捉えています。

鈴木委員 技術によっては教師の好きなようにやっているの、西伊豆中と自分では全くやるのが違ったりして、その辺は彼に合わせた方が良いと思う。下田の方はみんな免許外ばかりだから免許証あるのは1人しかいないので、だから何か作ってあげれば良いという感じでやってるのでほとんどやってなかったりとかあったりするみたいで。

その点、西伊豆町はまだちゃんとやれている。予算もあるし、それはすごく助かる。必要なものがちゃんと買える。

町長 他に何か教育関係の整備でございますでしょうか。

森本委員 Z会について、小学校のこれは、今、何年生が行っているのでしょうか。

教育長 今、5年生が仁科も田子も賀茂も3校とも5年生が実施しています。

町長 その他に天神は結構いろんな学年がやっていますかね。

教育長 天神については今、田子小学校でやっているというような話です。賀茂小、仁科小については聞いてます？

町長 天神はうちの子もやってるぐらいだから2年生がやってる。だからそれより上はみんなやっているのではないのでしょうか。希望者ですけど人数が多いので曜日が決まっているらしい。結局、パソコンを使わないといけないのでパソコンの台数と希望者で割り振りが決まっているという話はしていました。逆に小5から中1までタブレットがあり、そこにソフトが入れられれば、上手く使えるのかと思います。逆にそこにあったベネッセさんが入るのであれば、先生が隣りで見るとは可能かと思う。

局長 このベネッセのやつは、パスワードで保護者の方も成績とかそういうことも見るができるようです。今、松崎高校でこのベネッセを使っているのですが、本来であれば一貫校でないと中学から高校へと引き継げないので、ベネッセさんに話をしたら、連携で中高一貫をやっていますので、その辺は一つの括りとして引き継ぐこともできなくはないだろうということで、いろんな成績もそのまま松崎高校の方へ引き継がれるという形が出来るかと思えます。その辺でもやはり松崎高校支援にも繋がるのかと思っています。

町長 あとはこの辺は塾がないですし、子どもの数が少ないので先生も不採算じゃないか。だから、その辺は多少町が出してでもそういう環境を整えてあげないと、東海道沿線と学力の差が出てしまう。中には勉強嫌いだからいいよという子はいいいですけど、したい子はある程度塾の補完みたいなのも、その学校の教室で町の施策としていただくのか、またそこに教員を使えるのかと言ったらわからないですけど、こういう教材であれば〇×とか添削も、この場合はベネッセさんもしくはZ会さんがやられるので、あまり教員の手も煩わせないかと思えます。そこでなんとか折り合いが付けば良いですが。宇久須からは仁科の塾に行きますとか、そういうこともあり得て来るので。今は高校生も松崎の塾に宇久須から行っているとか言って、そのロスタイムだけでも30分です。

森本委員 結局、親は1時間半とか2時間とかどこかで時間を潰して迎えに行ってます。

町長 だから、最終的に統合したら学校の授業が終わった後は、塾の先生に来てもらって1部屋ずつ貸しても良いかと個人的に思います。音楽室はピアノの先生に貸して順番にやるなど。

教育長 (7)の社会教育事業の見直しについて、ご意見をいただきたいと思えます。

町長 社会教育事業というのは、事業自体はどのくらいの規模でやっているのですか。さっき言われた夕陽のマラソン、あとハイキング以外に。

局長 バレーボール大会もそうです。今、どうするかと検討しています。

松田係長 子どもたちのわんぱくクラブだとか海洋クラブだとかそういうものです。

鈴木委員 わんぱくクラブとか海洋クラブとかやっていますか。

松田係長 やっています。わんぱくクラブは他所に行つてのキャンプですけども、海洋クラブはこちらの地元の海で活動するということでカヌーなどをやったりしています。

局長 今までにはカヌーだけでしたので、どんどん減つて来ていたのですが、もっといろいろな海に係る事業をやっていますので、それなりに少しずつ増えている感じです。

町長 この前、査定のときに企画か観光も似たようなものを持っている。海洋クラブのメニューと一緒にして、そこに合わせれば教育委員会の仕事の一つ減るとかという話になりました。

教育委員会の職員が出て、そこで教えたり、漁協に何か出していたりするものはないか。係船釣りだとかなんとか。

松田係長 漁協はシュノーケリングだけです。

局長 まちづくりの方で係船釣りとかやっているのでしょうか。

町長 何かはわからないけれど1個事業をやっている。それをそこに入れば社会教育としての事業は減る。子どもたちは別にそちらに申し込めば良いだけで、頭は教育委員会でまちづくり課の案件に、という話です。

松田係長 その話なのですが、海洋クラブは1,000円の負担金で参加出来るのですが、まちづくり課の方は一つの事業が3,000円かかるそうです。一つ参加するのに3,000円かかるから何回か回数があると3,000円、6,000円、9,000円と上がってってしまうというようなことを言っていました。

町長 これはどうして1,000円で出来るのか。

松田係長 これは初めから負担金1,000円で6回に事業をやりたいということですから。足りない事業費は町が海洋クラブの補助金として出しています。

局長 専門の方をお願いしている部分とカヌーの指導員をお願いしている報酬分です。

町長 その予算をまちづくり課の方に計上すれば同じ。結果が一緒であれば主導がどこだろうが変わらないので、そこは上手くやってもらいたい。わんぱくクラブは富士に行くのですか。教育長、他に見直しありますか。

教育長 そうですね、ここ来年な所なのですけども、これは教育委員会事業というよりは別の団体、青少年問題協議関係で青少年意見体験発表会についても考えてもらえないだろうかというような意見も出ておりますので、またそれについてはお考えをいただければと思います。

町長 どんなものでしょうか。今、意見体験発表会のお話が出ましたけれども、子どもの中でやってるので、選ばれる子も固定してくる可能性も出て来るということ、学校が統合されると再来年は中学生の部門が1校しか出ない。ただ、その機会がないと子どもが発表する機会がないという。それを子どもがその環境を必要としてるかしてないか、そういうことによって成長が促されるのであればやった方が良く、とりあえずあてがわれたから発表しなくてはいけないと思ってやっているのか。

教育長 学校としてはだいぶ選ぶにも、それから文を頭に入れるにもちよっと手のかかる作業ということになっています。

町長 上手く解決させるためには松崎と交代でやるとか。5年生の松崎代表、西伊豆代表とか。そうすると5年・6年、1年・2・3と言っても各市町5人ずつ出せば良いわけでそうすると負担は減るかな。そうするとどこの学校から出すかという話になるので難しいところですけど。急激に事業をいっぺんになくすととなるとなんでなくしたんだという声も出てくるでしょう。

森本委員 小規模で学校行事として行うのではだめなんではないか。

町長 学校行事だと地域の人に来るのかなという。

森本委員 確かに自分の子が発表すると行きますけど、他の父兄ってまず来ないと思う。今度、松崎高校で西豆学の発表があるのですが、たぶんその時も自

分の子どもが出てる親だけは行くと思います。他の父兄の方はまず行かない。やはり皆さん仕事もなされているし、なかなか見に来るとするのは少ないです。

町長 実際今年、健康増進センターで行いました。あまり多いとは思えないくらい。あの広さでやるからそう感じるのかもしれないですが。なんのためにやるかというのを見失わないようにしないと。

森本委員 とても良い発表はしています。ただ、来てくれる方がなかなか少ない。

町長 逆に人数を絞って、社会福祉大会と抱き合わせてもらう。そうすると社協関係や民生の方たちとかもいる。なので、構成を意見体験発表会の表彰をやって、今年で言えばジャガー横田さんの旦那さんが来て、去年は江戸屋子猫さんが来てやると、それを見たい人が意見体験発表会も見てもらおうというようにやれば来るかもしれない。せっかく発表するなら多くの人の方が良いですよ。

鈴木委員 そもそも弁論大会の延長みたいな感じで始まったと思うが、あと一年も二年もすると小中1校ずつになるので、学校内行事としてやるような大会そんなようになっていくんじゃないかと思う。一時見に来る大人が少ないということで中学生を全員参加させろという話になり、中学生全員日曜日に来させた時がある。授業をやるということで登校日にし、発表会が終わってから仁科中に行って部活動交流をやって登校日にした時がある。学校の先生たちからだいぶ不評だった。

森本委員 夕陽の郷マラソンもそうですよね、日曜日を登校日にして。

鈴木委員 学校の文化祭みたいな形で日曜日なんかやって、そういう中の一つの催し物として弁論大会みたいな意見体験発表会があるとかというのでも良いのかと思う。昔、仁科中の時に自分の子どもが文化祭みたいなものを生徒会が主催でやったりしたことがあった。

町長 またその辺は教育委員会の方で練ってもらって、実際本当になくして良い物なのか縮小した方が良いのか継続なのか。

局長 あとこちら青少年問題協議会の中でもある程度提案はさせていただけた

らと思います。

町長 他には見直しの事業とはないんですか。

教育長 マラソン大会、青少年意見体験発表会、ほかは。

町長 地区対抗バレーの話が出てましたけど、今年は原因があって時期をずらしたんですよね。

局長 9月にしたのは2年前だったと思います。地区の一斉清掃とかと絡むということで9月に変えました。9月でも重なるところもあったのですが、なるべく地区の行事と被らないようにということで変えた。一度ワンタッチバレーではどうかという意見も出たのですが、やはりバレーをやりたい人たちはワンタッチバレーだと物足りないという、人集めが大変な地区があることも事実です。ですから、地区で一同に介してスポーツも良いんですけどもそれがはたしてバレーが良いのか、もっと違うスポーツでより多くの方が参加できる方が良いのかという協議はさせていただいています。ただ現状の中ではまだバレーで継続して行こうということにはなっています。

教育長 子ども会行事で小学生はドッジボール大会。昨年度は色々日程の編成が結構立て込んであって、そして実施日が賀茂小学校の行事と重なってということでそのところでちょっとトラブルもありました。本年度の場合には町内大会がなくなって、仁科小の方から参加してというようなそんな経過もあります。

局長 軽スポーツ教室の関係については、健康福祉でやってる健康づくり事業に合わせた形の中で高齢者の方たちが健康づくりに繋がるようなものということで色々新たなものを考えながらやっています。今、3B体操も個別でも活動するようになったりとか、スポーツ吹き矢も個別の団体で始めるようになったりとか。ラジオ体操もあちこちでやっています。だから、あのような形で教育委員会としてそれに繋がるようなものができれば良いかなと思っています。

鈴木委員 うちの町内でもやりたいという人がいるんだけど、誰が音頭をとるのって。自分が町内会長をやってるので、でも自分は朝は無理だと暇になったらあれだけど今は無理って言って。じゃ、貴方がやりなと言うと「いや、それ

は」と。

町長 そこが一番のネックなんですけどね。誰かとりあえずカセットテープを持ってくる人がいないと出来ないという。

鈴木委員 やってる所は。

局長 もう、あっちこっち小人数でやってます。あぁいう形で良いと思うんですけど。自分たちの決めた時間で出来ますんで。

鈴木委員 あれはだんだん広がるんじゃないかなと思ったけど。

町長 他に教育環境整備についてはよろしいですか。では(1)は終わりました、(2)の教育委員会事務事業全般について事務局の方からお願いします。

局長 とくに事務局の方としては用意をしていませんので、教育委員の方から全般についてご意見また町長に要望等があればこの場で言っていただければと思います。先ほど教育委員会の中でも定例会の中でも来年の事業の関係も説明をさせていただいたかと思いますが、その辺でも今ある程度お話が出たところもありますけどもそれ以外の中で提言等あればいただければというふうに思っております。

町長 ひとつ教育委員会事務事業にお願いしたいのは予算要求の段階で学校の窓の飛散フィルムは一か所だけじゃないですか。あれは来年度全部出来ないの？

局長 全校ということですか。

町長 全校、仁科は解体するから。

局長 フィルムを貼ってある所とすでにガラスを取り換えた所がある。

町長 令和2年度は1校分の確か予算が入ってた気がする。

局長 そうですね。賀茂中です

町長 その他は後ほどみたいな感じだったような気がするのでやるんだったら全部やってしまった方が。

局長 そうですね、賀茂中の方はフィルム貼り替えが出来ないということでガラスの入れ替えということで今回あげさせてあったかと思います。子どもたちの安全を考えた時にはある程度出来るところはやっていきたい。

飛散防止フィルムは貼ってあったかと思います。賀茂中の、普通教室になるところがべこべこで見えないということでそれが古くなってしまい、剥がれないということでした。

眞野委員 綺麗に取れない、カッターみたいなものでやっても透明だとガラスが傷になる。

石田係長 それでまた上から貼るとべこべこになるから、それなら入れ替えた方が良いでしょう。

局長 剥がす方が大変で手間がかかると言われた。飛散防止フィルムというか強化ガラスになっていない所を一度確認してみます。確か、やれる所はやったと思ったが。

町長 最終的に避難所ってことで、台風で木が飛んで来たりして、割れて避難所が使えませんかってシャレにならない。

局長 その一回確認を各学校するように。

鈴木委員 西伊豆中とか10年以上経ってるけどまだなんとかなってる。

町長 一つ思い出したのだが、一昨日西伊豆中から田子へ帰る生徒は旧洋ランで降りているのか。浮島のトンネルを4人ぐらい歩いていたが。

眞野委員 乗ってるのがバイパスのバスだと思う。

町長 あれって、もうちょっと待てば普通便が来るんじゃないのか。

眞野委員 たぶん来ると思うのだけど、洋ランの所やバイパスの上で焼却場の所で降りてあそこから小学校の所を降りて帰ってきますね。

町長 あれは、子どもは時間を知らないのか。

局長 いや、知っています。

眞野委員 それの方が早いとか友達としゃべって帰りたいとかじゃないですかね。

局長 あれは今1本おきぐらいです、バイパスと田子の中に入っていくのが。

町長 ずらせば下に行くバスに乗れるはずなのだが、乗り過ぎちゃうのかと思う。

局長 待つのが嫌で1本先に乗る。

町長 あれは分かって乗ってるんですか。それなら良いのだけど。

鈴木委員 帰りはみんな好きに帰るので昔、田子中で登校時間10分、下校時間1時間と言われていた。

町長 それなら良い。逆に統合関係とかで皆さん、もうちょっとこうしてくれとないかということはありませんか。なかなか委員に入っていない人はよく分からないかと思いますが、保護者説明会は制服とかやったでしょうけど。

眞野委員 どんどん進めてもらった方が話が早い。みんなに聞いてもまとまるものもまとまらないで、遅れるとどんどん詰まってしまうだけ。ある程度要点を決めてこれにしましょうみたいな感じに持っていった方が早いと思います。反対してもごく一部かもしれないし、そんなのはしょうがないみんなで決めるものだから。

アンケート取って、多数取った方が勝ちで、もうどんどん進めていった方が決まるものも決まらないんじゃないかと、端から端まで聞いてたらきりがないですもんね。

町長 ただ、今回建て替えがあるので、これ以上は早くはならないかもしれないですけど、ただ意見的にとくに賀茂の方は西に行くのだったら逆に条件こういうのを飲んでとかという話はないのか。

森本委員 そこまでの話は聞いてないです。その前に中学の統合の方が先じゃないですか、そちらの方の頭があって、そっちの4年後の大きな統合までいかない。すみません、小学生の子どもがいないのでお話を聞く機会がなかなかないのでごめんなさい、ちょっと聞いてはみますけど。

町長 ぜひ、お願いします。幼稚園は伊豆海に統合したので保護者は5人が13人になったからお互い子どもたちは友達がいっぱい増えてという話は聞いてます。ただ問題は来年分かれるのでというところがなかなか。結局5人になってしまう。田子は8人。だからそこがそのままという人もいるという意見は多少ありますが。ただ、なかなかそこは小学校全部とは出来ない。要は1年生のいない賀茂小っていうのは存在させられないので難しいかなと思うんですけども。逆に先行しておいた分、保護者同士、顔がある程度分かるので統合するには良い刺激にはなっていると思います。

教育長 仕方ないんですけども、その辺も小学校の方が賀茂小と田子小それぞれで複式は生まれるということでなんとか出来ればということでそのところがこちらで説明が充分ではなかったのかなというような反省もあります。

町長 その辺から下の保護者さんについては、もうこの人数だったら統合しましょうよという頭には切り替わりやすくなったとは思いますが。その辺で来年の小学校1年生からちょっと賀茂小に関しては少しケアをしてあげないと。では、そんなところでよろしいでしょうか。

(3)のその他については今まで色々ありましたからよろしいですかね。事務局の方もよろしいですかね。では、議事についてはこれで終わりにさせていただきます。

局長 ありがとうございます。それでは今年度の総合教育会議はこれで終了となります。令和元年度第二回の西伊豆町総合教育会議の方を閉会とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。お疲れさまでした。

以上